



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月9日

上場会社名 株式会社あさくま 上場取引所 東
 コード番号 7678 URL https://www.asakuma.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)横田 優
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)西尾 すみ子 (TEL)052(800)7781
 四半期報告書提出予定日 2021年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	2,441	△22.5	△258	—	257	—	203	—
2021年3月期第2四半期	3,150	△32.7	△408	—	△387	—	△515	—

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 203百万円 (—%) 2021年3月期第2四半期 △515百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	38.25	38.16
2021年3月期第2四半期	△96.42	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	3,882	2,555	65.8
2021年3月期	3,999	2,223	55.6

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 2,555百万円 2021年3月期 2,223百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 2022年3月期の配当予想につきましては、未定としております。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	6,000	△6.0	△136	—	50	—	20	3.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 — 社(社名) 、除外 1 社(社名)株式会社竹若
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	5,376,270株	2021年3月期	5,376,270株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	50,549株	2021年3月期	50,549株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	5,325,721株	2021年3月期2Q	5,343,370株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い、個人消費の低迷や企業収益、景況感の停滞など、厳しい状況で推移いたしました。また、足元では、新型コロナウイルスのワクチン接種効果による経済活動の回復に期待が高まるものの、繰り返される感染拡大による下振れリスクもあり、先行きは不透明な状況にあります。

外食産業におきましては、一部地域での緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の発出による営業時間の短縮要請等により、経営環境は依然として厳しい状況が続きました。

このような状況の下、当社グループといたしましては、「お客様に食を通じて感動を提案するエンターテインメントレストラン」という不変的な考えのもと、ステーキハウスとしての品質とお値打ち感のある商品を提供してまいりました。一部店舗においては、ボリューム感があり、お値打ち感のある「もりもりハンバーグ」及び「ぶつ切りステーキ」をご提供しております。また、自治体からの酒類提供自粛や時短要請等の宣言下において、一部店舗にて飛沫防止のためにサラダバーの提供を中断しておりましたが、お客様からの復活を望む声の高まりにお応えして、安全対策を講じたうえでサラダバーの復活を行いました。加えて売上高減少の影響を抑制するべく、家賃・人件費等の固定費の圧縮に注力したことによって損益分岐点を引き下げることでその影響を最小限に抑えることができました。

当第2四半期連結累計期間における店舗展開につきましては、直営店舗の改装2件（ステーキのあさくまトヨタ元町店、あさくまキッチン市原店）に着手しております。なお、当第2四半期連結会計期間末現在における当社の店舗数は、直営店62店舗にFC店5店舗を加えて67店舗、株式会社あさくまサクセッションの直営店は10店舗で、当社グループの総店舗数は77店舗（FC店5店舗を含む）となっております。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高が2,441,602千円（前年同四半期比22.5%減）、営業損失が258,493千円（前年同四半期は営業損失408,728千円）、経常利益が257,078千円（前年同四半期は経常損失387,936千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益が203,700千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失515,185千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて21,470千円減少し、2,493,739千円となりました。主な要因は現金及び預金で206,989千円、売掛金で64,270千円減少したことに対して未収入金で227,630千円増加したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて95,822千円減少し、1,388,772千円となりました。主な要因は建物及び構築物で48,056千円、差入保証金で36,943千円減少したことによります。また、破産更生債権等812,892千円を計上しており、貸倒引当金が同額減少しております。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて117,292千円減少し、3,882,511千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて259,164千円減少し、1,034,427千円となりました。主な要因は短期借入金で100,000千円減少したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて189,942千円減少し、292,379千円となりました。主な要因は長期借入金で141,940千円減少したことによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて449,107千円減少し、1,326,806千円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて331,814千円増加し、2,555,704千円となりました。主な要因は利益剰余金で331,814千円増加したことによります。なお、2021年7月の減資により資本金が771,583千円減少し、その他の資本剰余金が771,583千円増加したため、資本金が90,000千円、資本剰余金が1,710,238千円となりました。

この結果、自己資本比率は65.8%（前連結会計年度末は55.6%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は1,618,088千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は33,238千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益274,637千円、助成金収入△507,470千円、助成金の受取額170,781千円を計上したこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、得られた資金は2,823千円となりました。これは主に、差入保証金の回収16,884千円、資産除却債務の履行による支出15,272千円を計上したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は229,630千円となりました。これは主に、短期借入れによる収入150,000千円、短期借入金の返済による支出250,000千円、長期借入金の返済による支出129,630千円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想については、2021年6月24日の「2022年3月期業績予想に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

当社グループの業績見通しの前提となる事業環境は不透明であることから、最近の業績数値等の動向を精査したうえで合理的な業績予想の開示が可能となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,825,078	1,618,088
売掛金	252,669	188,399
原材料及び貯蔵品	29,044	32,253
未収入金	363,593	591,224
その他	45,463	64,353
貸倒引当金	△640	△580
流動資産合計	2,515,209	2,493,739
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	624,475	576,418
その他(純額)	255,038	249,871
有形固定資産合計	879,514	826,290
無形固定資産		
その他	35,181	33,505
無形固定資産合計	35,181	33,505
投資その他の資産		
破産更生債権等	—	812,892
差入保証金	515,047	478,104
その他	59,851	55,872
貸倒引当金	△5,000	△817,892
投資その他の資産合計	569,898	528,976
固定資産合計	1,484,595	1,388,772
資産合計	3,999,804	3,882,511

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	346,619	319,717
短期借入金	400,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	71,570	83,880
未払法人税等	29,909	70,788
賞与引当金	13,000	13,812
株主優待引当金	16,130	8,722
資産除去債務	61,787	6,766
その他	354,574	230,740
流動負債合計	1,293,591	1,034,427
固定負債		
長期借入金	357,830	215,890
資産除去債務	52,728	52,728
その他	71,763	23,761
固定負債合計	482,322	292,379
負債合計	1,775,913	1,326,806
純資産の部		
株主資本		
資本金	861,583	90,000
資本剰余金	938,655	1,710,238
利益剰余金	499,358	831,172
自己株式	△75,706	△75,706
株主資本合計	2,223,890	2,555,704
純資産合計	2,223,890	2,555,704
負債純資産合計	3,999,804	3,882,511

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	3,150,427	2,441,602
売上原価	1,299,721	1,045,783
売上総利益	1,850,706	1,395,819
販売費及び一般管理費	2,259,434	1,654,313
営業損失(△)	△408,728	△258,493
営業外収益		
受取利息及び配当金	750	9
助成金収入	—	507,470
その他	25,699	12,501
営業外収益合計	26,449	519,981
営業外費用		
支払利息	1,269	2,805
リース料	2,602	—
その他	1,787	1,603
営業外費用合計	5,658	4,409
経常利益又は経常損失(△)	△387,936	257,078
特別利益		
退店補償金収入	7,743	—
補助金収入	37,557	15,077
固定資産売却益	—	8,309
資産除去債務履行差額	—	12,693
その他	—	2,256
特別利益合計	45,301	38,336
特別損失		
固定資産売却損	16,373	—
店舗休止損失	37,170	8,064
減損損失	117,051	—
店舗閉鎖損失	18,279	9,713
その他	3,586	3,000
特別損失合計	192,461	20,777
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△535,096	274,637
法人税、住民税及び事業税	22,017	70,936
法人税等調整額	△41,928	—
法人税等合計	△19,911	70,936
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△515,185	203,700
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△515,185	203,700

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△515,185	203,700
その他の包括利益		
四半期包括利益	△515,185	203,700
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△515,185	203,700

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△535,096	274,637
減価償却費	107,279	60,161
減損損失	117,051	—
助成金収入	—	△507,470
補助金収入	△37,557	△15,077
資産除去債務履行差額	—	△12,693
のれん償却額	26,937	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△355	812
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△695	△60
受取利息及び受取配当金	△750	△9
支払利息	1,269	2,805
店舗閉鎖損失	18,279	9,713
固定資産除売却損益(△は益)	16,373	—
売上債権の増減額(△は増加)	6,633	63,495
棚卸資産の増減額(△は増加)	14,607	△3,208
仕入債務の増減額(△は減少)	16,241	△25,119
投資有価証券売却損益(△は益)	113	—
未払消費税等の増減額(△は減少)	△25,853	10,068
その他	△104,468	21,412
小計	△379,988	△120,531
利息及び配当金の受取額	750	9
利息の支払額	△1,269	△2,805
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	20,250	△17,999
助成金の受取額	—	170,781
補助金の受取額	23,199	3,783
営業活動によるキャッシュ・フロー	△337,057	33,238
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	56,515	—
有形固定資産の取得による支出	△19,791	△3,105
有形固定資産の売却による収入	4,000	3,724
短期貸付金の回収による収入	3,000	—
投資有価証券の売却による収入	16,487	—
無形固定資産の取得による支出	△27,500	—
差入保証金の差入による支出	△5,792	△63
差入保証金の回収による収入	31,632	16,884
預り保証金の返還による支出	△7,200	—
預り保証金の受入による収入	3,000	—
資産除去債務の履行による支出	—	△15,272
その他	△8,917	655
投資活動によるキャッシュ・フロー	45,434	2,823

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	330,000	150,000
短期借入金の返済による支出	△30,000	△250,000
長期借入れによる収入	460,000	—
長期借入金の返済による支出	△10,200	△129,630
株式の発行による収入	7,571	—
自己株式の取得による支出	△39,322	—
配当金の支払額	△26,656	—
リース債務の返済による支出	△10,535	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	680,857	△229,630
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	389,234	△193,567
現金及び現金同等物の期首残高	1,735,248	1,825,078
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	△13,422
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,124,482	1,618,088

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2021年6月25日開催の第48期定時株主総会において、資本金の額の減少について承認可決され、2021年7月30日にその効力が発生しました。この結果、当第2四半期累計期間において資本金が771,583千円減少し、その他の資本剰余金が771,583千円増加したため、当第2四半期連結会計期間末において資本金が90,000千円、資本剰余金が1,710,238千円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、販売費及び一般管理費に計上していた支払手数料等相当額を、売上値引として売上高に計上しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高、売上総利益並びに販売費及び一般管理費が53,779千円それぞれ減少しております。なお、第1四半期連結会計期間の利益剰余金の期首残高に影響はありません。

収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

当社グループの事業セグメントは、飲食事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

当社グループの事業セグメントは、飲食事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。